

南ア月報

(2011年5月)

在南アフリカ日本国大使館

1. 内政関連

●DA管理下ミッドバール地方行政区の銅像撤去

4日、アフリカンス文化グループは、ハウテン州のDA管理下にあるミッドバール行政区の市役所前に長年飾られていたヘンドリック・フルブルトの銅像を撤去した。フルブルトはアフリカーナー系の政治家で首相も務めたことがあるが、アパルトヘイトの建設者とも呼ばれており、ANC、COPE、PACなどがDAに対し撤去を求めていた。ティモシー・ナッツ・ミドバール市長は、銅像はミドバール市のものではなく、地元の文化グループが自主的に撤去したと語ったが、選挙戦を間近に控えDAの公算が強いとして各党から批判の声が挙がった。

●ANC行政区での公共トイレ論争

8日、サンデータイムズ紙は自由州のモカカ地方行政区に、壁のない吹きさらしの公共トイレが1600個ある旨報じた。その中には2003年に建てられて以来困いのないままの状態のものもあった。ANCメンバーは、そのようなトイレがあることを知らなかった、トイレの困いは住民が建設する予定であったと弁明した。2010年、西ケープ州にあるDA統治下の行政区でも同じような問題が発覚していた。

●行政職員スト・キャンセル

9日、南ア行政職員連合(SAMWU)は労働組合COSATUとの会合後、予定していたストライキ中止を発表した。SAMWUはシセカ伝統業務・協調統治大臣の税金乱用による即時解雇と18%の賃上げ等を要求し、13日から行われる予定であったが、地方選挙戦を18日に控え、ストがANCの選挙キャンペーンに支障を来しかねないとの判断からANCと同盟を組むCOSATUが説得にまわった。

●統一地方選挙行われる

18日、94年の民主化後4回目となる統一地方選挙が滞りなく行われた。投票率は57.8%と前回2006年の地方選挙の48%に比べ高いものとなり国民の関心の高さがうかがえた。得票率の結果はANC61.95%、DA23.94%、IFP3.56%となり、上位2党が他の少数政党を大きく引き離れた。ANCは60%以上を確保したものの前回選挙に比べると2%ほど減、一方でDAが前回の地方選より10%以上得票率を伸ばし、全体的にDAの躍進が目立った。

●ソウエトで列車衝突事故発生

20日、停止していた列車に他の列車が突っ込む列車事故がソウエトで発生し、乗客857名が負傷する衝突事故が起こった。事故は列車が時速30キロ制限区域を85キロで走っていたことによるもので、5日、南ア鉄道機構(PRASA)は列車の運転手を解雇すると発表した。鉄道事故は南アでは珍しいものではなく、2008年から2009年には1932名が負傷し434名が命を落としており、今回の事故は氷山の一角に過ぎない

という声もある。

2. 外政関連

●T I C A D閣僚級フォローアップ会合概要

1-2日、セネガルのダカールでT I C A D閣僚級フォローアップ会合が開催され、アフリカから47ヶ国、内30ヶ国より閣僚級代表が出席し、日本からは、松本外務大臣、高橋外務副大臣、民間より土橋日本経団連サブサハラ地域委員長が出席した。大震災発生後、日本が主催するはじめての本格的な国際会議となり、松本外務大臣より、大震災後の苦しい中でもアフリカに対する支援の約束を守ると発言し、アフリカ諸国の閣僚達から日本に賞賛の声が上がった。南アからはゴドングワナ経済開発副大臣が出席し、会議に貢献すると共に、C O P 17成功に向けたアフリカ諸国の協力を呼びかけた。

●ベトナム副主席のプレトリア訪問

2日、ヌグエン・チ・ドアン・ベトナム副主席が南アを訪問し、4日にモトランテ副大統領と会談した。昨年2010年10月にはモトランテ副大統領がベトナムを訪問し、貿易、国防、環境問題における協調を強化していくことに同意しており、今回も両国企業の連携を促進し2国間協調の可能性を追求していくことで合意した。現在両国は観光、水資源の分野における協調を行っている。ドアン副主席はフリーダムパークやソウエトのヘクターピーターソン博物館などを訪れ花輪を捧げた。

●アフリカ世界経済フォーラム開催

4日から6日まで、第21回アフリカ世界経済フォーラムがケープタウンで開催された。同フォーラムには60カ国から約900名が参加し、“Shaping Africa’s Role in the New Reality”というテーマに沿って、サブサハラ地域における持続的な成長とグローバル経済の支柱となる可能性について話し合われた。南ア政府からはズマ大統領を始めゴードン財務大臣、マニュエル大統領府大臣、デービス貿易産業大臣等多くの大臣が参加し、アフリカ各地の企業関係者も続々と参加した。

●アフリカ・インドサミット開催

20-26日、エチオピアのアディスアベバで第2回アフリカ・インドサミットが開催され、南アからはモトランテ副大統領及びエブラヒム国際関係・協力副大臣が参加した。当サミットは08年インドのニューデリーで初めて開催されアフリカ諸国とインドのパートナーシップを促すもの。人材及び機関のキャパシティビルディング、科学技術、農業生産、インフラ開発分野等におけるこれまでの達成度を評価し、P I D A、N E P A D、C A A D P等の枠組みにおけるアフリカ経済開発プログラム支援について話し合われた。

●NAM会議、インドネシアで開催

23-27日、インドネシアのバリで第16回非同盟諸国会議が開かれ、ヌコアナ＝マシャバナネ国際関係・協力大臣、ネネ同省国際問題担当大使が出席した。会議には25カ国の代表が参加、NAM加盟国におけるこれまでの国際開発の評価等が話し合われた。

●中国人民代表大会常務委員会委員長の訪問

25日、中国の呉邦国・全国人民代表大会常務委員会委員長が南アを訪問し、ズマ大統領を表敬した。大統領府は、今回の呉邦国委員長の訪問は南ア・中国の議会交流の強化で

あるとの声明を発表した。

●ズマ大統領、ナイジェリア新大統領就任式出席

29日、ズマ大統領はナイジェリアのアブジャで開かれたグッドラック・ジョナサン大統領の就任式に出席した。大統領にはツウェレ国家安全保障大臣が同行した。

●ズマ大統領、カダフィ指導者と会談

30日、ズマ大統領はリビアのトリポリを訪問しカダフィ指導者と会談した。カダフィ退陣への圧力が日に日に高まる中で、即時停戦の実現と人道支援、危機収束に必要な改革について意見交換を行った。

3. 経済

●第1四半期成長率4.8%

南ア経済の第1四半期の成長率は4.8%となった。これは、前年第4四半期の4.5%、及び南ア統計局による一般的な見込み（4.2%へ減速）よりも高い水準となった。同成長率は、製造業の生産が過去3年間で最高の14.5%の伸びとなったことに支えられた。ゴードン財務大臣は、同成長率が継続すれば、年間成長率は3.4%を超えるだろうと述べた。

●第1四半期公式失業率1%上昇

最新の労働力調査（南ア統計局）によると、第1四半期の公式失業率は、前年同期の24%から25%に上昇した。エコノミストは、過去1年間に公的部門で雇用が創出された一方で、民間部門で雇用が縮小した、と指摘した。アナリストは、金利の上昇が、中小企業の資本借入及び雇用拡大を思いとどまらせるだろうと警告している。

●消費者物価指数4.2%

南ア統計局によると、消費者物価指数は4月の前年同月比で4.2%と、3月（同4.1%）に比べて上昇した。一方で、この数値はブルームバーグの見込み（4.4%）を下回るものとなった。消費者物価指数の前月比は0.3%。食品の消費者物価指数は、前月比0.1%低下、前年同月比4.8%上昇となった。

●民間部門信用拡大

民間部門の信用拡大は、3月の前年同月比5.1%と、2月（同5.4%）に比べて減速した。一般家計を対象とする信用拡大が3月の信用拡大の主な推進力となった一方で、企業は、経済回復の見通しが悪いこと、電力供給や輸送面での限界により、借入に慎重になっている。

●製造部門3月成長減速

南ア統計局によると、製造業部門の3月の成長は前年同月比で4.6%と、2月（同5.7%）に比べて減速した。3月と2月の前月比は、それぞれ1.6%、1.7%であった。製造業部門は、ランド高、高額な燃料と電力、2桁の賃金上昇、低成長の資本投資と民間部門借入という要因によって影響を受けている。

●4月の自動車販売

4月の自動車販売は、日本で起こった地震と津波の影響を受けた。南ア自動車製造業者協会（NAAMSA）によると、4月の国内販売は3月に比べて28%の減少、前年同月比8%の増加となった。災害により自動車のサプライ・チェーンには深刻な混乱が生じており、自動車工場は、限定的に稼働している。一方で、4月に南アの祝祭日が多かったことも前月比の売り上げ減少に影響した。

●政策金利5.5%

南ア準備銀行は、5月の金融政策委員会で政策金利を5.5%に据え置くことを決めた。マーカス（Gill Marcus）準備銀行総裁は、来年初旬にはインフレ・ターゲットの上限である6%を上回るほどの急激な上昇がみられると物価上昇の見通しを修正した。準備銀行は、来年の第1四半期における物価上昇のピークを6.3%、年平均は6%を上回ると見込んでいる。

●アフリカの対中国貿易拡大

昨年、中国は、アフリカ大陸の全貿易の10.4%を占めるアフリカ最大の貿易相手国となった。2000年には110億ドル相当であった中国の対アフリカ貿易が、2010年には1,290億ドルとなり、10年間で、アフリカにおける中国の貿易は10倍になった。

●デービス貿易大臣、アフリカ産業変革の必要性問う

デービス貿易産業大臣は世界経済フォーラムで、①アフリカ諸国では産業化、一次産品生産からの多様化が振興されている、②アフリカ大陸を産業化の軌道に乗せるための主要な産業としては、食品加工、選鉱、薬品製造、グリーン発電が注目される、③輸送ロジスティクスを向上させるための道路、鉄道インフラへの投資支援のため、外国投資家とのパートナーシップ構築が必要である、と述べた。

●アフリカ銀行部門、雇用削減

厳しい状況にある南アフリカの銀行部門では、雇用喪失が続いている。これは、低い信用需要、高い障害、コスト上昇など、銀行部門の今後の見通しが厳しいためである。今年の第1四半期における市中銀行の将来見通しの自信は9年以來の水準に落ち込んだ。スタンダード銀行は1,641人分の雇用を削減した一方で、FNBは新規採用をしない方針で行員数を削減している。

●ビジネス障害：スキル不足

中小企業を対象とするビジネス調査から、回答者の1/3は必要なスキルをもつ被雇用者を見つけることができない、もしくは柔軟性が低い労働法のため新規雇用に対して神経質になっていると答えていることがわかった。ビジネス・ソフトウェア開発者によると、回答者の17%は、ビジネス拡大の最も大きな障害はスキル不足であると回答しており、同11%は厳格な労働法が人員増加を妨げていると回答している。

●南ア、太陽光発電大国として成長

南アは、第二の太陽光発電大国となる潜在能力をもっており、投資家が再生可能なエネルギーへの投資を考える際の好まれる市場として急成長している。アピントン・ソーラー・パーク（Upington Solar Park）の構想は、実現すれば世界最高の太陽発熱を有し、チリのアタカマ砂漠に匹敵するものとなる。同計画は、産業開発地帯に5000メ

ガワットの太陽光発電所を展開するというプロポーザル。

4. 広報・文化

●南ア人A L T（英語補助講師）同窓会

14日、ヨハネスブルグの日本食レストランにおいて、日本の小中高校で英語指導の経験のある南ア人元A L T、本年7月下旬に渡日予定の新規A L T、在留邦人ら約50名が集まった。在留邦人の協力を得て琴の演奏が行われるなど同窓会兼昼食会は盛況に行われた。南アフリカからは1997年以降、約380名がA L TとしてJ E T（Japan Exchange & Teaching）プログラムに参加しており、現在も109名の現役南ア人A L Tが日本各地で活躍している。南ア人A L T同窓会は東日本大震災に関して義援金を既に日本赤十字社に寄付しており、引き続き募金活動を行っている。

●篠崎靖男氏指揮によるケープタウン・フィルハーモニー・オーケストラ・コンサート

19日、26日、ケープタウン・シティホールにおいて、篠崎靖男氏がケープタウン・フィルハーモニー・オーケストラを指揮し、両日とも会場は満席となり絶賛を博した。篠崎氏はフィンランド・キュミ・シンフォニエッタの首席指揮者・芸術監督であり、昨年3月には日・南ア交流100周年記念コンサートとしてソリストにピアニスト小川典子氏を迎え、ヨハネスブルグ・フィルハーモニー・オーケストラを指揮している。

5. 警備・治安

●追尾車両にご用心

報道や警察関係者の話によると、最近、ヨハネスブルグ・プレトリア近郊で、ショッピングモールから車両を尾行し、自宅ゲート付近において強盗を行う手口が相次いでいる。特に白のBMW（サンルーフ付）を使用した武装強盗団の犯行が目立っている（4月以降4件発生）。この強盗団は3～4人組で、AK-47等のライフル銃やけん銃を使用し、被害者宅に警備員が配置されていようとも犯行を敢行している。30日には大使館員宅居住区において、ATMを利用した後の車両（夫婦乗車）が、武装グループ車両に追尾され、自宅前において銃撃戦となる事件が発生した。（犯人グループは白のVWジェッタで逃走中）